群教セ	H02 － 02
	平19.239集

幼小のなめらかな接続を目指して
── 指導のつながりに視点を当てた合同研修会の在り方 ──

長期研修Ⅰ研修員　　鬼形　浩

《研究の概要》

幼小のなめらかな接続を図るためには、幼稚園と小学校の教員が合同研修会を開催し、幼小それぞれの子どもの実態や指導のつながりについてよく理解し合うことが重要である。本研究は、この合同研修会の在り方について研究する。子どもの実態を共通した見方でとらえ、指導のつながりに視点を当てた合同研修会モデルを考案し、どこでも無理なく開催できるようにすることにより、幼小のなめらかな接続に結びつけることを目指す。

キーワード　【 幼小連携　幼児教育　合同研修会　相互理解　話を聴く 】

Ⅰ　研究の背景とねらい

1　現状と課題

（1）はじめに

幼児教育と小学校教育との連携の必要性については以前より言われているが、これまで以上にその重要性が指摘されている。

中央教育審議会答申『子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について』（平成17年１月28日）では、次のことが示されている。

> 子どもの発達や学びの連続性を確保する観点から、連携・接続を通じた幼児教育と小学校教育双方の質の向上を図る。
>
> 幼稚園等施設の教員等と小学校教員の合同研修等を通じて相互理解を深め、教員等の資質向上を図り、きめ細かな教育を展開する必要がある。（一部抜粋、下線筆者）

また、中央教育審議会『教育課程におけるこれまでの審議のまとめ』（平成19年11月７日）では、次のように示されている。

> 小学校教育との円滑な接続を図り、幼稚園における教育の成果が小学校につながっていくことが大切であることから、教師が意見交換などを通じて幼児と児童の実態や指導の在り方について相互理解を深めたり、幼児と児童が交流するなど、小学校との連携や交流を図る。（一部抜粋、下線筆者）

このように、合同研修や意見交換などを通じて、特に接続期（幼稚園の年長後期から小学校１年生の前期頃）の幼児・児童の実態や指導の在り方について相互理解を深めることの必要性が述べられている。

そこで、本県の状況について、これまで実施された調査結果をもとに考えた。

（2）　群馬県内の状況についての先行調査

前橋市幼児教育センターが実施した調査の質問「保幼小の連携を推進すること」（図１）では、保幼小指導者の95％以上が連携の推進は重要であると考えている。しかし、実現していると思っているのは30％程度であることが分かる。このことから、幼小連携のための具体的な手だてが見いだされていないと考える。

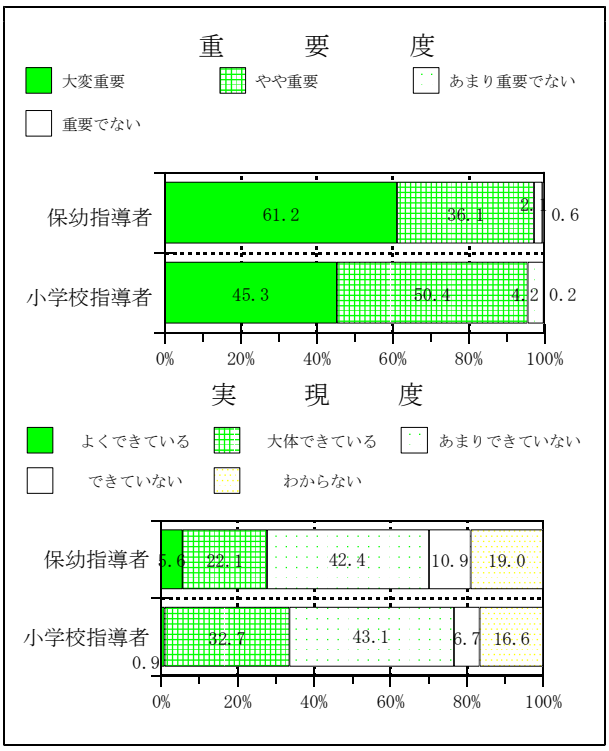

図１　幼児教育と小学校教育との連携に関する調査（前橋市幼児教育センター　前橋市内全保育所・幼稚園や小学校で2005年7月実施）

群馬県教育委員会の調査（図２）からは、幼小連携の方法として、子どもの情報交換、保育・授業での交流、相互の参観は半数以上の園で実施されているが、相互理解を深める合同研修会は33%とあまり行われていないことが分かる。

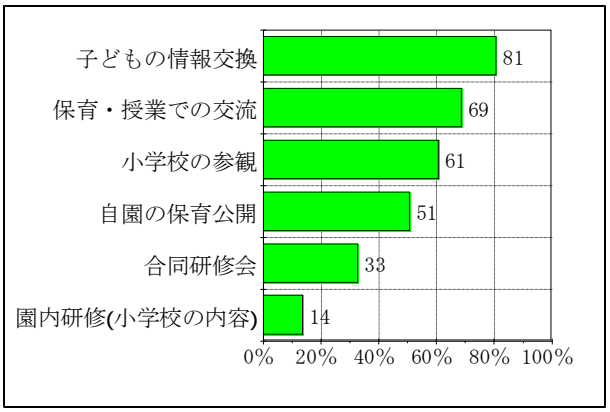

図2　公立幼稚園における幼小連携に関する実態調査

（群馬県教育委員会　県内96園にて2007年実施）

（図１）と同じ調査において、質問「全体への先生の話を手悪さやおしゃべりをしないで聞くこと」（図３）によると、保幼小指導者の97%以上が重要と考えている。しかし、実現していると思っている割合は、保幼指導者が71.3%で、小学校指導者は35.7%と意識のズレが生じている。このことからも、子どもの実態を共通した見方でとらえ、指導のつながりを一緒に考える合同研修会の必要があると言える。

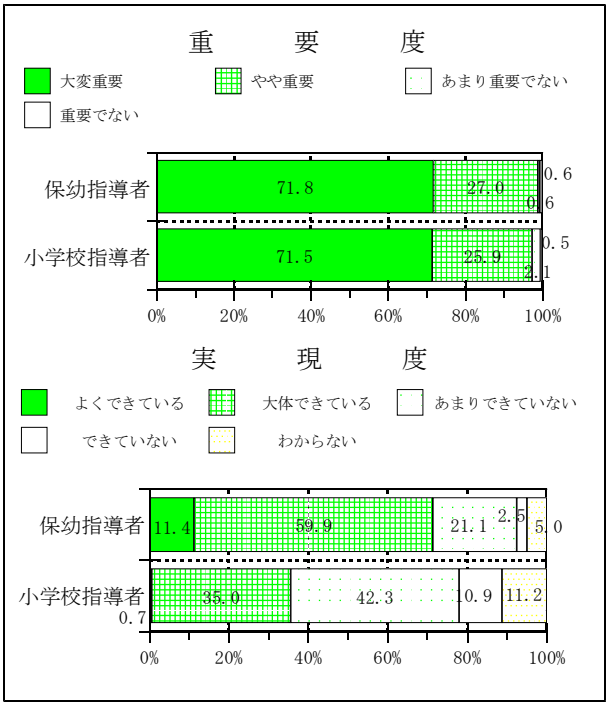

図3　小学校入学までに育ってほしい力についての調査（前橋市幼児教育センター　前橋市内全保育所・幼稚園や小学校で2005年7月実施）

(3)　課題

○　幼小連携の重要性は強く、その実現度は低く感じられている。これは、幼小連携のための具体的な手だてが示されていないことにあると考える。

○　幼小の教員で意識のズレがあるのは、子どもの実態を共通した見方でとらえ、指導のつながりを考える合同研修会など、意見交換をする機会が少ないことにあると考える。

○　合同研修会の実施率が低いのは、保育や授業の参観後に開く場合が多く、時間的な負担が大きいことにあると考える。また、どこでも無理なく実施できる合同研修会のモデルがないことにもあると考える。

○　合同研修会の実施が広がらないのは、参加した教員が実際の指導につなげようとするなどの有効性が示されていないことにあると考える。

2　課題解決の見通し

以下の２点に着目した合同研修会モデルを考案し、その有効性を示すことができれば、合同研修会が多くの地域で開催されるようになり、幼小のなめらかな接続に向かうであろう。

○　接続期の課題を話し合いのテーマとし、子どもの実態を共通した見方でとらえ、指導のつながりに視点を当てる。

○　どこでも無理なく開催でき、幼小教員が一緒に考えられるような資料を活用することにより、時間的な負担を軽減する。

3　ねらい

幼小のなめらかな接続のために、合同研修会モデルを考案し、実践を通してその有効性を明らかにする。

Ⅱ　研究内容

1　聞き取り調査

本年度５月から７月にかけて、合同研修会モデルを作成するために、伊勢崎市内２幼稚園と２小学校において教員への聞き取り調査を行った。

(1)　幼小連携の必要性について

幼小の教員は連携の必要性を感じ、幼稚園は小学校の、小学校は幼稚園の教育内容を理解し自分の教育を見直す必要があると考えている。

(2)　幼小連携の方法について

連携に向けてどこを改善すればよいのか、合同で行う研修会をどのように設定したらよいのか悩んでいる。また、幼小連携の在り方を考えたり、交流したりする時間の設定が課題になっている。

(3)　重視したい子どもの力について

幼小共通して「先生や友達の話をしっかり聴ける」をあげる人が最も多く、指導上の一番の課題としている。そこで、子どもに身に付けてほしい聴く力とそのための指導について聞き取りを行ったところ、主な意見は次の通りであった。

［幼稚園］

○　相手が何を伝えようとしているのか、耳だけでなく、心を傾けて相手の話を理解しようとする力を育てたい。

○　遊びの中で友達に自分の思いが出せるように援助したい。そのことで、相手の話も聴けるようになると思う。

○　信頼できる大人と一対一で話したり聴いたりすることを基盤にして、次第に集団の中でも話が聴けるようになっていくので、まずは、幼児との関係づくりに努めたい。

［小学校］

○　話している人の顔（目）を見て、おしゃべりをしないで聴く姿勢を育てたい。

○　話を聞いていないと勉強が分からなくなり、他人に迷惑をかけることにもなることを理解させる指導をしたい。

○　子どもたちが話をしっかり聴けるように、授業を飽きさせないための工夫や集団の中で話を聞くときのルールを明確にして指導したい。

全体として、幼稚園教員は一対一や小集団で話を聴く場面を想起しているのに対して、小学校教員は学級全体で一斉に教員の話を聞く場面や授業を思い浮かべているようであり、特に、接続期の子どもへの願いに違いが感じられた。このことは、（図３）の調査結果と関連していると考える。

２　合同研修会モデルの基本構想

(1) 基本的な考え

接続期の子どもの実態は、共通な部分が多いはずである。幼小の教員が、同じ場面の子どもの実態をどのようにとらえるか話し合い、その実態に応じた指導を考え、接続期の指導を見いだし、実際の自分の指導につながっていくような合同研修会モデルを考案する。

(2)　名称『子どもの育ちを語る会』

気軽に抵抗なく参加しやすいようやわらかなイメージにするため。

(3)　テーマ『人の話をしっかり聴こう』

聞き取り調査の結果、重視したい子どもの力として幼小の教員から共通に最も多くあげられたため。

(4)　時間　60～80分

時間的な負担を軽減するため。

(5)　参加者

幼稚園担任、小学校低学年担任を中心に、各３名程度。

(6)　進行役

幼児教育と小学校教育の両方を参観したことのある人が望ましい。参考となるような進め方のポイントやまとめ方なども示したい。

(7)　提示資料

短時間で効果的に実施することを考え、一緒に考えるためのビデオや事例等の資料を提示する。

(8)　話し合いのポイント

○　幼小の教員では、「話を聴く力」のとらえ方が違うという現状を、まずは出し合う。

○　資料を通して接続期の子どもの実態は、共通な面が多いことに気付けるようにする。

○　「人の話をしっかり聴く」ことは、信頼できる大人が一対一でかかわる場面から始まり、だんだん人数が増えたり、相手が広がったりしていき、しだいに学級全体への話を聴くことができるようになる。このような発達を考え、幼小のつながりに気付けるようにする。

○　教員と子ども、子どもどうしの人間関係・信頼関係を築き、話をじっくり聴く相手がいることが土台となってしだいに話を聴く力を育てることになる。このような指導のつながりを意識できるようにする。

○　話し合ったことをもとに、実際の自分の指導につなげて考えられるように進める。

3　合同研修会モデルの検討

(1) モデル試作１

活　動　内　容	進行役のポイント	時間
①合同研修会の目的。簡単な自己紹介。		５分
②「話をしっかり聴く」子どもを育てるために、どのようなことを心がけているか、話し合う。	・幼小で基本的な考え方、ねらいは大きく違っていないことを確認する。	15分
③教員が子どもの話を聴く見本を示す保育のビデオを視聴して、話を聴く力を伸ばす指導について考える。	・教員が話を聴いている姿を見せてやることが、話を聴く力を育てるために大切であることを確認する。	25分
④保育のビデオを視聴して、話をするときの教員の指導について話し合う。	・教員の意図は伝わっていたか、この教員は子どもとの信頼関係をこわしているのではないかなどを問う。	25分
⑤話をしっかり聴く子どもの援助・指導を幼小がつなげていくために大切なこと、協力できることなど、日常の指導を振り返って意見を出してもらう。	・信頼関係を築くことや、話をしっかり聴いてもらった経験が、話を聴くことにつながることを確認する。	10分

○　モデル試作1の実践（活動内容②、③、④から）

テーマ：「人の話をしっかり聴こう」　参加者：幼稚園担任２名、小学校担任２名、進行役１名

小学校教員

相手を理解して思いやり、相手の立場になれることが、本当の意味で話を聴くことだと思うけど。

話を聴いてもらってうれしかった経験を重ねて、今度は自分から聴こうとする態度が育っていくので、聴きたいと思う子にすることが大切だと思うわ。

幼稚園教員

※聴いてもらってよかったという経験を積み重ねて、聴こうとする態度が育つという意見が出た。

小学校教員

先生が「うん、うん」とうなずいたり、聴く姿勢の見本となったりしていたのがよく分かったわ。

お互いに思いを出しているので、子どもたちどうし聴き合えている。先生はあまり言葉を言わないようにしていたようだった。

幼稚園教員

保育のビデオを見ている場面

※聴く力を育てるには、先生が話を聴く態度の見本を示すという意見が出された。

話を聴いてもらってよかったという経験を積み重ねることが、人の話をしっかり聴くことにつながっていくのですね。

進行役

幼稚園教員

先生が「グループをつくってください」と言っているのが一方的で、子どもたちの思いを理解していないと思う。子どもは何でこんなことをやらされているんだろうと思っているのではないかな。

話を聴くというのは、先生が相手の子どもを理解していないとうまく伝わらないのに、この先生は子どもたちと離れてしまっているという意見が多いようですね。

進行役

小学校教員

先生は子どもたちの状況を考えずに、すぐに「できるかな」って言葉に結びつけてしまっている。そう言われれば、たいてい何人かは「できる」と言うけれど、「はい、やってみて」と言われても、先生の意図は子どもたちには伝わらないだろうな。

※参加者の意見や考えが同じ方向で、課題がはっきり見えてきた。

○　モデル試作１を実践して

成果　保育のビデオを一緒に見て、テーマについて話し合うことができた。子どもと教員の信頼関係や、一人一人の子どもを理解することが教員には必要であることが出された。話を聴くことが基本になることは、幼小で共通であることが確かめられた。

課題　幼稚園の保育場面を提示した資料ばかりで、小学校の指導に関する資料がなかったために、幼小の指導のつながりを考えるまでには至らず、話し合いを深められなかった。

(2)　モデル試作２

活　動　内　容	進　行　役　の　ポ　イ　ン　ト	時間
①合同研修会の目的。簡単な自己紹介。		５分
②話を聞いている場面の子どもたちの写真を見て、「話をしっかり聞く姿」ができているか、○、△、×の札を上げる。	・「話をしっかり聞く姿」に違いがあるという状況を出し合えるようにする。	15分
③保育ビデオを視聴して、話をするときの教員の指導について話し合う。	・教員の指導の在り方や教員と子どもとの信頼関係などについて問う。	20分
④話は聞いているが、落ち着きのない小１の事例『じっとしていられないＴ男』の資料を読んで話し合う。	・表面的なことだけでは判断できない内面を知る指導について考えるよう促す。	20分
⑤教員が話を聴く見本を示す保育のビデオを視聴し、なめらかな接続のための指導のつながりに視点を当てて共通して考えられる部分を話し合う。	・年長でも小学校低学年でも自分を受け入れてもらっているということが話を聴く力に関係することを確認する。	20分

○　モデル試作２の実践（活動内容②、③、④から）

テーマ：「人の話をしっかり聴こう」　参加者：幼稚園担任４名、小学校担任５名、進行役１名

写真を見て考えている場面

幼稚園教員：視線は前を向いていなくても、聞いているんじゃないかな。

小学校教員：小学校では、まずは姿勢を大事にする。別の方を向いている子は別のことを考えていて、聞いていないと思ってしまう。

※幼稚園と小学校の教員では「話をしっかり聞く姿」のとらえ方に違いがある。

小学校教員：静かにさせ、話を聞くという姿勢を全員につくってから話をする。

幼稚園教員：聴いていないようで、聴いているのかな。先生が話を聴いて欲しいなという雰囲気をつくることが大切。

※幼小の考え方に歩み寄りが見られないので、共通な部分が見い出せるような発問が必要である。

司会者：話を聴かなくちゃという意識をどう育てればいいのでしょうか。

幼稚園教員：先生が一人一人に目を向けて、まずは一対一の関わりの中で話を聴くことから、集団で話を聴くことへとつなげていきたい。

小学校教員：複数の教員がいるとよい。先生がそばに行くだけで、集中するようになる。でも、子どもとの信頼関係が築けないと聴いてはもらえない。

※ここでは、信頼関係を築くことが大切という考えが出てきた。

司会者：小学校では、信頼関係が大切だと言っていますが、幼稚園も同じですか。

小学校教員：聴いているときも聴いていないときもある。理解できた部分を評価したい。

幼稚園教員：態度姿勢がしっかり聴いているように見えても実はそうでないこともある。この子が、「よく分かった」と言っているのだから、認めたい。

※幼小で共通の見方が出てきた。

司会者：子どもの表面的なことを見ても分からないことは多く、本人が分かったと言っていることを評価してやることは大切ですね。

○　モデル試作２を実践して

成果　導入時の資料に写真を用いたことで話し合いが活発に行われた。その中で、幼小それぞれの子どもの実態のとらえ方が出しやすく違いがあることが明らかになり、課題を知るのに役立った。

小学校の事例を資料に加えたことで、幼稚園と小学校両方の子どもの実態が考えられ、特に接続期の実態は共通な部分が多いことが明らかになった。

課題　子どもの実態を共通な見方でとらえられたが、具体的な指導を考えたり、もう少し指導のつながりを深めたりすることが求められる。

(3)　モデル試作３

活　動　内　容	進　行　役　の　ポ　イ　ン　ト	時間
①　合同研修会の目的。簡単な自己紹介。		５分
②話を聞いている場面の子どもたちの写真を見て、「話をしっかり聞く姿」ができているか、○、△、×の札を上げる。	・「話をしっかり聞く姿」に違いがあるという現状を出し合う。	10分
③保育ビデオを視聴して、話をするときの教員の指導について話し合う。	・幼児期から小学校低学年までは、人間関係が大切であることを確認する。	20分
④話は聞いているが、落ち着きのない小１の事例『じっとしていられないＴ男』の資料を読んで話し合う。	・一人一人を大事にすることは幼小共通であることをおさえる。	20分
⑤保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領の「話を聞く」に関係する部分を抜き出してまとめた資料（筆者作成）を見て、幼小のつながりについて考える。	・一対一の教員と子どもとの信頼関係を築くこと、話を聴いてもらった経験を積み重ねることが大事であることなど、幼小の教育内容はつながっていることを確認する。	15分
⑥幼小のなめらかな接続に視点を当てて、今後どのような指導・援助をしていきたいか話し合う。	・幼小のつながりを考え、自分の指導に結びつけられるように意見を引き出す。	10分

○　モデル試作３の実践（活動内容③、④、⑤、⑥から）

テーマ：「人の話をしっかり聴こう」　参加者：幼稚園担任２名、小学校担任２名、進行役１名

司会者：先生の意図は伝わったのでしょうか。

小学校教員：先生の指示の仕方が悪いから、伝わらないのだろう。

幼稚園教員：班を作る必要感が伝わっていない。自分たちのこととして受け止められていない。

司会者：「けんちゃんいい？」の言葉は、まわりの子はどう思ったのでしょうか。

小学校教員：まわりの子に迷惑になると思い、自分もよく言ってしまう。授業の中では教員の話を聞いてほしい思いが強くなってしまう。

幼稚園教員：先生との信頼関係が十分できていなければ、よけいに聞こうとしなくなるのでは。

幼稚園教員：先生と子どもの心をつなぐことを大切にしたい。

※幼稚園と小学校の教員では「話をしっかり聴く姿」のとらえ方に違いがあるようだ。

幼稚園教員：聴いていると思う。表面でなく、内面的な部分を見たい。

小学校教員：態度はよくないが、聴いていると思う。話をしている人に失礼になることを教える。

※形ではなく内面が大切だという意見が共通に出た。

司会者：Ｔ男君の担任の先生は、この後Ｔ男君をよく観察してＴ男君との関係ができてきたら、Ｔ男君は落ち着いてきたそうです。

話し合いの場面

小学校教員：小学校では、集団を相手に話をするイメージがあるが、「話し手と聞き手が一対一となる活動を中心に置き、そこから一対複数の活動へ広げていくことが大切」と、幼稚園と共通点があることが書かれているのを初めて知った。

幼稚園教員：「自分の話を聴いてもらうことにより、人の話も聴こうとする気持ちになる」と書かれていて、教育要領はやはり基本だと思った。

小学校教員：幼稚園に行って、参観等を通して先生の指導などについて学びたいです。

幼稚園教員：小学校の先生も教育に対する考え方はそれほど違わないので安心した。

○モデル試作３を実践して

成果　保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領の「話を聞く」部分を取り出して比べたことにより、ねらいや内容のつながりを確認できた。

課題　自分の指導を振り返り、つながりを意識した指導に結びつけるところが弱かったので、具体策について考えることも必要である。

Ⅲ　合同研修会のモデル

1　合同研修会『子どもの育ちを語る会』モデル

モデル試作１～３の課題を改善した結果、以下のモデルを考案した。本モデルは、子どもの実態を共通した見方でとらえ、自分の指導を振り返り、実際の指導に結びつけることにより、幼小のなめらかな接続を目指している。

進行役（※は進め方のポイント）	参加者	時間
①〔はじめに〕合同研修会の目的を説明する。	・簡単に自己紹介をする。	５分
②〔導入〕雰囲気作り ●話を聞く場面の幼児と児童の写真を１枚ずつ見せて、話を聞いていると思うか、札を上げて示してもらう。 「どうしてそのように思いましたか。」 **※写真は、参加者がお互いの「話を聞く姿」のとらえ方を知るために使う。初対面の参加者が多いことを想定しているので、お互いの考えを知る程度にとどめる。**	・写真を見て話をしっかり聞けているかどうか、○、×、△のいずれかの札を上げ、感じたことを話す。	10分
③〔展開１〕話し合い１ ●保育ビデオ『ここだからね　せんせい』の一場面を見て、学級全体に話をするときの教員の指導について話し合ってもらう。 （５歳児の学級で生活グループを作るために、教員が説明している場面。進行役説明１分、ビデオ視聴３分） 「先生の意図は伝わっていたでしょうか。」 「子どもたちはどんな思いで聞いていたのでしょう。」 ●「けんちゃんいい？（こっちを向いて）」の発言について話し合ってもらう。 「けんちゃんいい？の言葉で、子どもはどう感じたでしょうか。」 **※幼小の教員では、「話をしっかり聴く姿」のとらえ方に違いがあることを確認する。**	・話をするときの教員の指導について話し合う。 ・「けんちゃんいい？」という発言で話を聴くようになるかどうかを話し合う。	15分
④〔展開２〕話し合い２ ●小１の事例『じっとしていられないＴ男』の資料を読んで、Ｔ男の聴く力を伸ばす指導について考えてもらう。 （いつも落ち着きがなくおしゃべりもしてしまうＴ男が「今日の校長先生の話、よく分かったよ。」と言った場面の事例をまとめた資料） 「Ｔ男君にこの後どのように声をかけますか。」 **※話を聞くときのルールより人間関係ができてくると聴くようになるなど、共通している指導の基本を考える。一人一人を大事にすることは、幼小共通であることをおさえる。**	・自分ならＴ男にこの後どんな指導をしていくか考え、話し合う。	20分
⑤〔展開３〕話し合い３ ●保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領から「話を聞く」に関係する部分を抜き出してまとめた資料（筆者作成）を見て、幼児教育と小学校教育の教育内容はつながっていることを確認してもらう。 「資料の表を見て、意見を出してください。」 ●これまでの幼稚園の参観の中で、小学校へのつながりを感じた具体的な事例を２～３紹介する。 ●日常の指導から思い当たることを出してもらう。 「日常の指導の中でつながりを感じたようなことはありませんか。」 **※幼児期と小学校期の子どもの実態の共通する部分や指導のつながりをとらえるようにする。**	・資料を見て、幼児教育と小学校教育の共通する部分やつながっている部分があることを確認する。 ・事例の紹介から思い当たる体験や自分で指導していることなど、実際の場面を思い起こして考える。	20分
⑥〔まとめ〕確認 ●日常の指導を振り返り、幼小のなめらかな接続を目指し、今後自分たちの指導をどうつなげていったらよいか考え、話し合ってもらう。 **※幼小のつながりを考え、実際の指導に結びつけられるよう話をまとめる。**	・自分自身の指導をどのようにしていったらよいか考える。	10分

〔提示資料について〕
［導入］一般的な幼稚園や小学校での、「話を聞く」場面の写真を使用する。
［話し合い①］『ここだからね　せんせい』（岩波保育シリーズ）のビデオの一場面を使用する。
［話し合い②］『じっとしていられないＴ男』（「小学校一年生の心理」大日本図書より）を使用する。

２　モデルの実践

今回の合同研修会では、小学校の近くに公立幼稚園がなく、幼小連携が進みにくい地域の教員が参加した。

導入　・・互いのとらえ方を知る。

幼稚園教員

全体の雰囲気が落ち着いている。後ろの女の子の表情や目の輝きから聞いていると思う。

のり出してのぞき込んでいる女の子がいる。顔の向きが話をしている人の方を見ている。

小学校教員

初対面であることを考慮して、写真を示して札を上げてもらい、自由に意見が出し合えるよう場の雰囲気作りを図った。札を上げることがゲーム感覚でできたのか、初対面の教員同士でも笑顔が見られ和やかな雰囲気ができた。

話を聴く姿として、幼稚園教員は表情や目の輝きからとらえ、小学校教員は背筋が伸びていることや顔の向きからとらえている意見が出され、とらえ方の違いを感じることにつながった。

展開１　・・違いを知る。

幼稚園教員

先生と子どもの心がつながっていないので、先生の思いが子どもたちには伝わっていないと思う。

聞いていないと自分が困るので、まずは話をしている人に注目させることが大切。小学校では、授業をしっかり聞いてもらえるよう工夫する。

小学校教員

幼稚園教員からは内面的な心情面を大切にしたいという意見、小学校教員からは学習という視点で判断するという意見が出され、とらえ方の違いを知ることにつながった。

展開２　・・実態は共通であることをおさえる。

小学校教員

話を聴く姿を形としてとらえるのではなく、内面を見ていくことが重要だ。

話を聴くときには教員と子ども、子ども同士の人間関係が大切。

幼稚園教員

子ども一人一人を大事にすることが基本

幼稚園教員

小１の資料を一緒に考えることで、子どもの実態のとらえ方が共通になり、指導のつながりに向けた意識が見られた。

展開３　・・指導のつながりを考える。

小学校教員

年長の最後のころと、入学したころでは、子どもの実態は似ていると思う。

幼稚園で話を聴くということを大切にしていくと、小学校につながると思った。

幼稚園教員

小学校教員

接続期の子どもの実態は共通なので、指導をつなぐように考えなければいけない。

幼稚園教員

保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領を見比べることで、参加者の意識が指導する側に向いたので、日常の指導につなげてもらうために、実際の保育や授業の場面から思い当たる体験や指導を出し合ってもらった。このことで、自分自身の指導を振り返ることにつながり、なめらかな接続に向けて取り組もうとする意欲が高まったと考える。

これまでの実践を重ねた結果、地域や各園・学校によって、幼小連携の推進状況が異なるので、先に示したモデルを基にその推進状況に合わせて選べるよう３つのパターンを示すことにした。なお、このことにより幼稚園と小学校だけでなく、保育所と小学校、保育所・幼稚園と小学校が対象でも使用できるものと考える。

3 モデルのパターン1・2・3

テーマ 〔人の話をしっかり聴こう〕

パターン 1	パターン 2	パターン 3
◎60分間で行い、接続期の子どもの実態は共通に見られることに気付き、今後の連携へつなげるパターン	◎小学校の事例をあげ、接続期の子どもの実態の共通なとらえを深め、指導のつながりについて考えるパターン	◎幼小のなめらかな接続を目指して指導を振り返り、具体策を考え、連携に結び付けるパターン
〔はじめに〕主旨説明　５分 ・合同研修会の目的の説明 ・参加者の自己紹介	〔はじめに〕主旨説明　５分 ・合同研修会の目的の説明 ・参加者の自己紹介	〔はじめに〕主旨説明　５分 ・合同研修会の目的の説明 ・参加者の自己紹介
〔導入〕雰囲気作り　10分 写真を見て聞く姿を考える。 〔ポイント〕 ●お互いの考えを知る。 〔内容〕 ある場面の子どもたちの写真を見て、話がしっかり聞けているかを判断し、話し合う。	〔導入〕話し合い①　15分 写真を見て聞く姿を考える。 〔ポイント〕 ●とらえ方の違いを知る。 〔内容〕 ある場面の子どもたちの写真を見て、話がしっかり聞けているかを判断し、話し合う。	〔導入〕話し合い①　15分 聴く力を伸ばす指導を考える。 〔ポイント〕 ●育てたい子ども像を確認する。 〔内容〕 話をしっかり聴く子ども像とはどのようなイメージか、話し合う。
〔展開１〕話し合い①　15分 教員の姿勢を話し合う。 〔ポイント〕ここが中心部分！ ●とらえ方の違いを感じる。 〔内容〕 保育ビデオ『ここだからねせんせい』の一場面の指導について話し合う。	〔展開１〕話し合い②　25分 教員の姿勢を話し合う。 〔ポイント〕 ●共通する考えを感じる。 〔内容〕 保育ビデオ『ここだからねせんせい』の一場面の指導について話し合う。	〔展開１〕話し合い②　20分 教員の姿勢を話し合う。 〔ポイント〕 ●共通する考えを確かめる。 〔内容〕 保育ビデオ『年長さんがつくったおばけやしき』の一場面の指導について話し合う。
〔展開２〕話し合い②　20分 つながりを感じる。 〔ポイント〕 ●連携の必要性に気付く。 〔内容〕 保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領からねらいや内容のつながりを読み取り、指導のつながりについて話し合う。	〔展開２〕話し合い③　25分 聴く力を伸ばす指導を考える。ここが中心部分！ 〔ポイント〕 ●共通する考えを確かめる。 〔内容〕 小１事例『じっとしていられないＴ男』を読み、Ｔ男に対する今後の指導について話し合う。	〔展開２〕話し合い③　20分 子どもへのかかわり方を話し合う。 〔ポイント〕 ●接続期の大切なことを考える。 〔内容〕 接続期のつながりの大切さを感じられる事例を聞き、指導における大切なことについて話し合う。
〔まとめ〕確認　10分 今後の連携に向けて考える。 〔ポイント〕 ●これからの連携に意欲をもつ。 〔内容〕 今日の合同研修会を振り返り、有用だったことを考え、今後の連携について話し合う。	〔まとめ〕確認　10分 つながりの指導を考える。 〔ポイント〕 ●接続期の指導を見直す。 〔内容〕 接続期のつながりが感じられる事例を聞き、指導における不足しがちなことについて考える。	〔まとめ〕話し合い④　20分 つながりの具体策を考える。ここが中心部分！ 〔ポイント〕 ●連携に向けて具体策を考える。 〔内容〕 接続期のなめらかなつながりに向けて、これからの具体策などを話し合う。

4 考察

子どもの実態を共通した見方でとらえ、指導のつながりを考える80分間程度の合同研修会モデルを考案した。接続期における子どもの実態は共通な部分が多いはずなのに、指導がつながらないという現状があったが、少なくとも参加者は、指導のつながりを見いだし自分の指導を振り返ろうとしていた。実施後のアンケートからも、「話を聴く力の指導に今後、役立つことがあった。」と参加者全員が答えていたことからも分かる。

それは、次のことが有効であったからであろうと考える。

(1) テーマの適切さ

幼小の教員から共通に課題としてあげられたテーマであり、必要性が高かったことが有効性につながったと考える。アンケートにも「テーマが適切で話しやすかった。」という意見が見られた。

(2) 資料の効果

○ 『ここだからね　せんせい』（岩波保育ビデオシリーズ）のビデオを活用して話し合うことで、話を聴く姿のとらえ方に幼小の教員で違いがあることが確認できた。また、教員と子どもの信頼関係について考える上でも有効であった。

○ 『じっとしていられないＴ男』の資料（小１の事例「小学一年生の心理」大日本図書より）は、子どもを表面的な見方でなく、内面的な気持ちを理解することの重要性を考えることにつながった。また、実態を共通した見方でとらえ、指導のつながりを考える上で有効であった。

○ 保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領からテーマに関係する部分を抜き出してまとめた資料（筆者作成）は、接続期の指導はつながっていて幼小の教員が一緒に考える必要があることを確認するのに大変有効であった。

(3) 進行役の進め方

どこでどんなことを確認していくかなど、進行役が話し合いを進めるポイントを明らかにしたことで、有意義な進め方ができた。

これらのことで、初めて顔を合わせた教員同士でも、最後には「授業・保育を公開し合い、それぞれの指導の仕方や先生の配慮を学びたい。」など、接続期における指導のつながりの必要性を強く感じてもらえたと考える。

Ⅳ　まとめ

1　研究の成果

「情報交換はしていたが、実際の指導のつながりについては考えていなかった。」「連携を進めたくても合同研修会をどのように行うか分からない。」などの課題があった。参加者がビデオや事例をもとに一緒に話し合うことで、子どもの実態を共通した見方でとらえ、指導をつなげていくためにどうしたらよいかを考えるようになっていった。合同研修会終了後には、「お互いに参観し合って指導の実際を学びたい。」など、なめらかな接続に向けた意識の変容が見られた。この意識の変容が、日常の指導を振り返ることになり、幼小のつながりを考えた指導に結び付くと思われる。

本合同研修会モデルは、日々の授業や保育にあまり支障をきたさず、短時間で成果を得ることができる。また、合同研修会を３パターン示したことで、参加者等の実態に応じて実施することができるという利点もある。

近くに連携先がない、多数の連携先があるなどの理由で連携が進まない地域であっても、合同研修会は第一歩を始める有効な手だてであることが分かった。本研究の合同研修会モデルを活用し、指導のつながりを考えることで、幼小のなめらかな接続につながることが望まれる。

2　今後の課題

(1) 考案したモデルについて

○ 様々な地域や状況に柔軟に対応できる合同研修会モデルになっているか。

○ 参加者の実態にあった資料、ビデオ、写真であったか。

などの有効性を引き続き検証していかなければならない。今後は、考案した合同研修会モデルを県内に発信し、広めていく必要がある。

(2) テーマについて

基本的な生活習慣の獲得、コミュニケーションや思いやりの気持ちの育ちなど多くのテーマが考えられる。今後、各地域で必要感の高いテーマで合同研修会を開催し、幼小の教員が様々な意見をかわしながら、幼児期から児童期へのつながりを考えていくことが必要である。